

第2講座 地理Ⅱ（日本地理）

P.24 ①＜解答例＞

1. a ウ b 政令指定（都市） 2. B
イ E ア 3. 野菜産出額 ウ 畜産産出額
オ 4. 中心部の気温が周辺部より高い。
5. (1)三角州〔デルタ〕 (2) 4（倍） (3)原料
となる原油を輸入しやすい臨海部に立地してい
る。

＜解説＞

1. 大名の支配領域の中心地に形成された都市を城下町とよび、熊本市もこれに当たる。人口50万人以上の大都市で、政府の指定を受けた都市を政令指定都市という。港町は、海や川、湖の港に発達した都市で、特に商業や貿易などが発達したところが多い。代表的な都市は、堺（大阪府）、博多（福岡県）などである。門前町は、寺社の門前に発達した都市で、伊勢神宮の宇治山田（三重県）、善光寺の長野などが有名である。
2. 7図のBは岩手県、Cは静岡県、Eは兵庫県である。岩手県の説明はイで、「西部には南北に山脈が走り」＝奥羽山脈、「沿岸部は入り組んだ海岸線」＝リアス海岸の三陸海岸、「夏になると…冷たく湿った北東の風」＝やませなどの表現から判断できる。兵庫県の説明はアで、「中央部に比較なだらかな山地が東西にのび」＝中国山地、「北部は、…冬に降水量が多い」＝日本海側の気候、「南部は、一年を通じて温暖で降水量が少ない」＝瀬戸内の気候から判断するとよい。ウは静岡県の説明である。
3. 7図のAは北海道、Dは愛知県、Fは福岡県である。8表の項目を整理してみると、アは北海道が突出して高い、イは愛知県が最も高い、ウは北海道が最も高く、次いで熊本県、さらに愛知県と続く、エは熊本県が最も高い、オは北海道が突出して高く、次いで熊本県が高い、ということがわかる。このことから、都道府県別の生産額で北海道が全国2位である米がア、渥美半島の電照ぎくなどが有名な愛知県が最も高いので花きがイ、みかんの生産額で熊本県が全国4位なので果実がエと判断できる。残ったウとオの判別は、大都市圏の中心都市である名古屋市をもつ愛知県は、近郊農業がさかんであると判断できることから、ウが野菜、北海道が突出して高く、一般的に畜産物（おもに肉類や乳製品）の方が米や野菜などよりも金額が高いことから、オが畜産であると考えるとよい。
4. 「9図から読み取れる都市におけるヒートアイランド現象の特徴」を書くという問題。ただし、問題文より、指定語は「気温」で、9図が、2005年の東京23区における1日の最低気温が25℃以上であった日数の分布を示していること、9図の・が東京駅を示しており、駅の周辺

には高層ビルが建ち並ぶオフィス街や商業地区が広がっていることをふまえないといけない。ヒートアイランド現象とは、都市で、地面がアスファルトで固められ、熱い排気が外に出されるために、周辺よりも気温が高くなる現象である。今回の問題は、「都市における特徴」なので、「都市とその周辺」ではなく、「都市の中心部とその周辺」と表現しなければならない。東京駅は都心、つまり、都市の中心部に位置しているため、気温が高くなりやすいのである。

5. (1)河川が運んできた土砂によって形成される地形は、大きく分けて二つある。河川が山地から平地に出るところに形成される、緩やかな傾斜地である扇状地と、河口部に形成される三角州である。

(2)地形図中の面積を求める問題では、必ず一辺の長さを先に求めることがポイントである。たとえば、5万分の1の地形図上で1cmであれば、実際の距離は $1 \times 50000 = 50000\text{cm}$ であるが、2万5千分の1の地形図上では、 $50000 \div 25000 = 2\text{cm}$ となる。このことから、実際の距離が同じ場合、2万5千分の1の地形図は、5万分の1の地形図の2倍の長さとして表示されることがわかるので、10図に示された、ほぼ正方形の形の一辺が2倍の長さになることに気づく。したがって、2倍された一辺×2倍された一辺で面積を求めることになるので、面積は4倍で表示されることがわかる。

(3)「10図、11図から読み取れるわが国における石油化学コンビナートの立地の特徴」を書くという問題。ただし、問題文より、「12表から読み取れることと関連付けて」とあるので、この条件に留意すること。12表の通り、日本の場合、原油の産出量が極めて少ないので、9割以上を輸入に依存している。原油は、専用の運搬船〔タンカー〕で輸入するため、臨海部に工場を建設すると、輸入した原油をそのまま工場で精製・利用できる。このため、日本の石油化学コンビナートは、基本的に臨海部に立地している。また、石炭や鉄鉱石を主原料とする鉄鋼業の工場も、同様の理由で、日本では臨海部に立地している場合が多い。

P.26 ②＜解答例＞

1. (1) 兵庫県 (2) a 赤石（山脈） b カルデラ (3) ② ウ ④ ア 2. (1) A
○ B × C × (2) ア 3. (1) a ア
イヌ（アイヌ民族） b 石狩（平野） (2) ウ
(3) a イ b 排他的経済水域 (4) 経営規模の拡大や機械化が進められている。

＜解説＞

1. (1)一般に山陰とは、中国地方で中国山地よりも北の日本海に面する地域、つまり、鳥取県・

島根県を指す場合が多い。今回は、9図で示されたDの範囲に島根県がふくまれていない点、8表の「隠岐」に島根県がすでに示されている点をふまえて解答する必要がある。したがって、京都府と鳥取県の間に位置する兵庫県が正解である。問題で「府または県の名前」を書くように指示されているので、「県」まで解答する。

(2)日本アルプスは、日本の中央部に位置する飛騨山脈・木曽山脈・赤石山脈のことで、3000m級の山々が連なる日本の代表的な山岳地帯である。また、火山の噴火によって陥没してできた大きなくぼ地のことをカルデラとよび、9図のA北海道の有珠山・洞爺湖、F熊本県の阿蘇山が代表的なものである。

(3)日照時間とは、10図の(注)にある通り、「直射日光が雲や霧などにさえぎられずに地表を照らした時間のこと」である。つまり、雨や雪が降ると日照時間は減少するということになる。

9図を見ると、①・④は太平洋側に位置しており、②・③は日本海側に位置していることがわかる。このことから、②・③は冬に降雪(降雨)が多くなり、日照時間が短くなることが予想される。したがって、10図のウ・エのどちらかに当たると判断できる。さらに、②は北海道の都市なので、気候帯は冷帯〔亜寒帯〕で梅雨がないことが特徴の一つであるため、6月ごろの日照時間は③に比べると減少しないと考えられる。これらのことから、②がウ、③がエであることがわかる。また、ア・イに当たる①・④の都市のうち、①は北海道の太平洋側に位置する都市であるため、夏は南東の季節風が千島海流〔親潮〕によって冷やされて濃霧〔海霧〕が発生する。したがって、①が夏に大きく日照時間が減少するイ、④がアであることがわかる。

2. (1)Bについて、荒地地ではなく、畑である。Cについて、地形図の縮尺が示されていない場合は、図中に示されたスケールを利用して考える。11図の左下に示された300mのスケールをもとに考えると、郵便局から寺院までの直線距離は1200m=1.2km以上あることがわかるので誤りである。

(2)まず、X付近に急斜面で50mをこえる地点は存在しないので、イは誤りであると判断できる。次に、X-Yの中央付近に50mの等高線があり、Y付近を通る道路上に6.0m・4.7mの水準点があることをふまえると、Y付近の標高が50mよりも高いとは考えにくい。これでウも除外できるので、残ったアが答えである。

3. (1)北海道の先住民族はアイヌ(民族)である。また、札幌市は、石狩平野に広がる扇状地に、明治時代以降、計画的に造成された都市である。

(2)エコツアーリズムの定義は、資料13にある通りである。この定義から考えると、アの雪まつり、

イの動物園、エのスキー場は自然観光資源に当てはまらない。

(3)aは、「ソ連(ロシア)やアメリカ合衆国の近海で」とあることから、他国の近くの海で魚を獲っているいることがわかるので、遠洋漁業である。釧路漁港はかつて、遠洋漁業の一種である、太平洋北部やオホーツク海、ベーリング海でさけ・ます・たら・かになどを獲る北洋漁業の中心基地として発展した。しかし、公海でのさけ・ます漁が禁止されたことや、各国が排他的経済水域を設定したことによって、活動の縮小を余儀なくされている。bは、「沿岸から200海里以内」、「水産資源や鉱産資源を自国のものとして管理する」とあることから排他的経済水域である。

(4)北海道の酪農経営の変化を答える問題。「生乳生産量と乳用牛の飼育戸数の変化をふまえ」ながら「14表から読み取って」解答するように指示されていることに注意する。14表を見ると、生乳生産量は増加しているが、乳用牛の飼育戸数は大きく減少していることがわかる。これは、100頭以上の飼育戸数が増加していること、つまり、酪農を営む農家の経営規模が大きくなっていることと、搾乳ロボット導入戸数の大はばな増加、つまり、農業の機械化が進んだことの二つがおもな原因だと考えられる。14表の読み取りなので、読み取れる内容はきちんと解答にふくめ、読み取ることができない内容は解答にふくめないように注意する。

P.28 3<解答例>

1. (1) 札幌、ペキン (2) a群 ア b群 ウ (3) 福島県 ア 鹿児島県 エ (4) 中部国際空港 ウ 福岡空港 ア 2. (1) ① ウ ② ア (2) ウ レタス エ みかん (3) 周辺にある集落の標高が低く、周囲に津波から避難できる高台がないため。

<解説>

1. (1)7図は、問題文にある通り、「熊本からの距離と方位が正しい地図」である。したがって、熊本とウラジオストクとの直線距離よりも長いものが解答で、札幌とペキンがこれに当てはまる。

(2)日本の北端は択捉島(北海道)、東端は南鳥島(東京都)、南端は沖ノ鳥島(東京都)、西端は与那国島(沖縄県)なので、a群はアが解答となる。また、b群のアは南鳥島、イは竹島(島根県)、ウは沖ノ鳥島の写真である。

(3)海岸線延長とは、簡単に言うとは海岸線の長さのことである。8表には、海岸線延長以外に「境を接している府県の数」が示されていることに着目する。アとウは6府県と接しているので、福島県か三重県のいずれか、イとエは2府県と

接しているの、青森県か鹿児島県のいずれか、**オ**は北海道に次いで海岸線延長が長く（全国2位）、佐賀県1県としか接していない長崎県と判断した状態で問題を解くと取り組みやすくなる。福島県と三重県の比較では、志摩半島などにリアス海岸が見られる三重県の方が海岸線延長が長くなるので、**ア**が福島県、**ウ**が三重県であると判断する。青森県と鹿児島県の比較では、種子島や屋久島、奄美群島などの離島を多く含む鹿児島県の方が海岸線延長が長くなるので、**イ**が青森県、**エ**が鹿児島県であると判断する。

(4)9図には、年間旅客数が105万人以上の航空路線が示されている。線で結ばれていない空港間は、定期便が就航していないか、年間旅客数が105万人未満のいずれかであると考えることができる。中部国際空港は愛知県に位置する空港で、愛知県から東京都や大阪府に移動する場合には、新幹線を中心とした高速交通網を利用する人が多いと考えられる。したがって、東京国際空港と大阪国際空港の両方と線で結ばれていない**ウ**がこれに当たる。また、福岡空港は、同様の理由で大阪国際空港と線で結ばれておらず、那覇空港との旅客数が比較的多い**ア**がこれに当たる。**イ**は新千歳空港で、東京国際空港との旅客数が最も多いことと、那覇空港との直行便がないことから判断できる。

2. (1)10図の①は日本海側の気候、②は内陸〔中央高地〕の気候、③は太平洋側の気候に属する。11図は、一般的な雨温図ではないが、問題文をよく読み、何がどのような規則で表示してあるのかを読み取ればよい。日本海側の気候の特徴は冬の降雪なので、1月の降水量が極めて多い**ウ**、内陸性の気候の特徴は年間降水量が少なく、夏と冬の気温差が大きいことなので**ア**が当てはまる。

(2)10図の**A**は新潟県、**B**は山梨県、**C**は長野県、**D**は静岡県、**E**は愛知県である。主要な農産物の生産上位道県は、年によって若干変動する場合もあるが、基本的には12表で示された通りである。**ア**は新潟県・北海道・秋田県の順なので米、**イ**は山梨県・長野県の順なのでぶどう、**ウ**は長野県が1位なのでレタス、**エ**は和歌山県・愛媛県の順なのでみかん、**オ**は群馬県・愛知県の順なのでキャベツである。この他にもいくつか入試でよく扱われる農産物があるので、統計・資料のページで確認しておくこと。

(3)「●で示した場所に「命山」とよばれる人口丘が造られた理由」が問われている内容で、「13図と資料14から読み取れることをもとに」が条件である。13図からわかることは、地形図で示されている範囲が全体的に低地で、住宅が多い集落は3～4mの標高であること、資料14からわかることは、「命山」が7.5mの高さの施設で、

東同笠・大野地区の300人を収容できるものであること、である。問題文に「13図の海岸付近では、最大で高さ10mの津波が想定されており」とあることから、津波の際の避難場所として設置されたものだと考えることができる。

P.30 ④＜解答例＞

1. (1) **ウ→ア→イ** (2) 盛岡駅 **イ** 金沢駅 **エ** 2. **イ** 3. (1) **ア** 水力 **イ** 火力
(2) 太陽光による発電は、発電所1箇所当たりの発電量が火力よりも少ない。4. (1) 扇状地
(2) **イ** (3) 野岳湖から引いた水が標高250m付近を流れているため、標高250m付近よりも低い場所は水田、高い場所は畑などに利用されている。

＜解説＞

1. (1)**ア**阿武隈川は、福島県に水源があり宮城県で海にそそぐ。**イ**北上川は、岩手県に水源があり宮城県で海にそそぐ。**ウ**利根川は、群馬県に水源があり茨城県と千葉県の県境で海にそそぐ。流域面積は日本最大である。

(2)盛岡駅は岩手県の県庁所在地にある駅、金沢駅は石川県の県庁所在地にある駅なので、岩手県と石川県の伝統的工芸品を選べばよい。**ア**会津塗は福島県会津若松市など、**イ**南部鉄器は岩手県盛岡市など、**ウ**西陣織は京都府京都市、**エ**輪島塗は石川県輪島市で生産される伝統的工芸品である。

2. 10図で色が塗られている道県は、北から順に北海道・茨城県・千葉県・長崎県・鹿児島県である。北海道が生産量1位となる農産物が多いので、問題文にある通り、長崎県が上位に入っていることに着目する。**ア**さつまいもの収穫量は1位鹿児島県・2位茨城県・3位千葉県（2022年）、**イ**じゃがいもの収穫量は1位北海道・2位鹿児島県・3位長崎県（2022年）、**ウ**肉牛の飼育頭数は1位北海道・2位鹿児島県・3位宮崎県（2023年）、**エ**乳牛の飼育頭数は1位北海道・2位栃木県・3位熊本県（2023年）なので、条件を満たしているのは**ア**・**イ**のいずれか。さつまいもは北海道と長崎県が主産県ではないので、じゃがいもであると判断する。

3. (1)**ア**は富山県と長野県の発電量が多いので水力発電、**イ**は全体的に発電量が多く、特に千葉県で多いので火力発電、**ウ**は11表では福井県と鹿児島県にしか発電量が表示されていないので原子力発電、**エ**は大分県と鹿児島県にしか発電量が表示されておらず、大分県の発電量が多いので地熱発電である。火力発電は、原油・石炭・天然ガスを燃料とするため、日本の場合は燃料の輸入に便利な沿岸部に多く立地し、立地制約が少ないため、電力需要の多い工業地域や大都市の近郊に多くなる。原子力発電は、ウラ

ンを燃料とし、大量の冷却水が必要なため沿岸部に多く立地するが、安全性の問題があるため、地盤が固く人口が少ない地域という条件を満たさなければならない。そのため、分布地域がかなり限定されていて、特に多いのは福井県と福島県である。九州地方では、佐賀県の玄海原子力発電所と鹿児島県の川内原子力発電所の2か所のみである。水力発電は、山地に建設されたダムの水を利用するため山がちな地形が必要で、内陸部に多く立地する。地熱発電は、火山活動で生じる地熱を利用するため、火山が多い地域に立地する。九州地方は火山が多く、日本の温泉の源泉数の約4割、地熱発電所の約6割が集中している。

(2)12表より、発電所の数は太陽光が火力の5倍以上多いが、総発電量は火力が太陽光の50倍以上多いことがわかる。太陽光による発電の火力との比較から読み取れる特徴を答える問題なので、発電所1か所当たりの発電量が少ないという内容の導き出せばよい。

4. (1)「郡川が山間部から平地に流れ出た所に土砂がたまって形成された」という部分に着目するとよい。河川が土砂を運んでつくる地形は大きく2つあり、山間部から平地に流れ出た所にできるものを扇状地、河口部にできるものを三角州という。

(2)地形図では、等高線の間隔がせいまいほど傾斜が急で、広いほど傾斜がゆるやかであることを示している。14図で最も間隔がせまく、等高線が密に引かれているものを選べばよい。

(3)かんがいとは、水がとほしい場所に水を引き入れることをいう。14図では、野岳湖にためられた水が、水路を通じて標高250m付近をかんがいしていることがわかる。標高250m付近を境に見られる土地利用の違いを、14図から要因を読み取って解答する問題なので、標高250m付近よりも低い場所は、野岳湖の水によるかんがいが可能なので水田に、標高250m付近よりも高い場所は、野岳湖の水によるかんがいが難しいため畑に利用されていることを解答すればよい。標高が高い場所の水を低い場所で利用することは容易だが、低い場所の水を高い場所で利用することは、特別な設備等も必要となり難しいと考えればよい。

P.32 5<解答例>

1. (1) a ア b 対馬(海流) (2) 日本
ウ アメリカ合衆国 ア 2. (1) イ (2) イ
千葉県 オ 沖縄県 (3) すべての製造品に占める出荷額の割合が、鉄鋼は減少しているのに対して、輸送用機械は増加している。
(4) ウ

<解説>

1. (1)日本列島は、北海道から沖縄までの距離が約3000kmである。ただし、7図の内側の円は、北方領土や沖縄などを含んでいないため、半径が2000kmあるとは考えられない。したがって、アの1000kmである。東京から九州の端までが約1000kmだと覚えておいてもよい。また、矢印で示された海流は、日本海を北上する暖流である対馬海流である。

(2)日本は、国土面積の10倍以上もの広大な排他的経済水域を有する国なので、ウである。ニュージーランドや日本のように、四方を海に囲まれた島国は、国土面積に対する排他的経済水域の面積比率が大きくなりやすい。また、アとイの比較では、国土面積の大きい主な国を覚えておくことで解答が可能となる。国土面積は1位ロシア連邦・2位カナダ・3位アメリカ合衆国・4位中国〔中華人民共和国〕・5位ブラジルなので、アメリカ合衆国の方がブラジルよりも大きく表示されるはずである。したがって、アがアメリカ合衆国、イがブラジルである。

2. (1)9図のAは札幌市、Bは横浜市、Cは舞鶴市、Dは大阪市を示している。まず、Aについては、日本では北海道だけが冷帯の気候に属するので、気温が全体的に低いウが当てはまる。次にCについては、日本海側の気候の特徴は冬の降雪なので、1月や12月の降水量が多いエが当てはまる。BとDの比較については、年間降水量が少ないという特徴を持つ瀬戸内の気候に属するDがア、夏の降水量が多いという特徴を持つ太平洋側の気候に属するBがイである。

(2)9図では、①が北海道、②が千葉県、③が愛知県、④が京都府、⑤が沖縄県である。10表の項目で判断が容易なものから判別していくと、アは人口が最も多く、オは人口が熊本県よりも少ないことがわかるので、アは名古屋大都市圏の中心である③の愛知県、オは⑤の沖縄県であると判断できる。次に農業産出額はウが突出して多いので、稲作・畑作・畜産のいずれもがさかんな①の北海道であると判断する。さらに、外国人宿泊数が突出して多いエは④の京都府、国際旅客定期便数が突出して多いイは、日本の国際線の中心空港である成田国際空港を有する②の千葉県であることがわかる。例年、このタイプの問題は記号で解答する形式だったが、今回は「道府県名を書きなさい」という指示なので、その点にも注意が必要である。

(3)問われているのは、「すべての製造品に占める鉄鋼および輸送用機械の出荷額の変化について、11表から読み取れること」なので、まずは11表を正しく読み取ることが必要である。ここでは、鉄鋼・輸送用機械・すべての製造品の出荷額は、すべて増加している。ただし、指定語が「割合」なので、実数である「額」の変化を

論述するのではなく、鉄鋼と輸送用機械の出荷額が、すべての製造品の出荷額に占める割合の変化を説明する必要がある。1970年は、鉄鋼の出荷額がすべての製造品の出荷額に占める割合は、 $4699 \div 18379 = 0.2556\cdots$ なので、約26%。輸送用機械の出荷額がすべての製造品の出荷額に占める割合は、 $281 \div 18379 = 0.0152\cdots$ なので、約2%。同様に2020年も計算すると、鉄鋼が0.0985 $\cdots$ となって約10%で、輸送用機械は0.3383 $\cdots$ となって約34%であることがわかる。つまり、出荷額が増えているからといって、全体に占める割合も増えたとは言えないということである。したがって、「鉄鋼がすべての製造品の出荷額に占める割合は減少」しており、「輸送用機械がすべての製造品の出荷額に占める割合は増加」している、という内容にまとめる。

(4)ア図書館ではなく、博物館・美術館の地図記号なので誤り。イ2万5千分の1地形図で地形図上の3cmの実際の距離は、 $3 \times 25000 = 75000\text{cm}$ なので、0.75kmとなり誤り。ウ交番の地図記号が見られるので正しい。エ隅田川よりも東にある区役所の地図記号は、墨田区役所だと考えられる。台東区役所は上野駅からやや東側にある地図記号なので誤り。